

新刊案内

スクールソーシャルワーカーと教師のための 校内支援実践マニュアル

子どもの課題を早期に発見・チームで解決

大塚美和子：著 B5判 120ページ 定価 1500円+税

発行：神戸学院大学出版会

発売：エピック

ISBN978-4-89985-226-1

別教材：実写版DVD



“発達課題・不登校”と“虐待”の2つの模擬事例に対し、支援のための3つの会議の設置、構成、運営について様々な図表・ツールを提示して詳説。会議でのやりとりを網羅しながら、出席者の発言の意図や効果を解説し課題解決への道筋を示します。

左…本文80ページ
「保護者ケース会議の事前チェックリスト」
下…本文86ページ
「保護者ケース会議」

スクールソーシャルワーカーと教師のための
子どもの課題を早期に発見・チームで解決
校内支援実践マニュアル

大塚美和子
Ohtsuka Miwako

親子とのケース会議
校内ケース会議
校内支援会議

“チーム学校”で取り組む子どもの課題

スクールソーシャルワーカー、教師、保護者へのインタビュー調査に基づき考案した「問題予防型校内支援実践モデル」をもとに、問題解決のための「校内支援実践マニュアル」を作成。スクールソーシャルワーカーと学校が協働で行う「校内支援会議」「校内ケース会議」「保護者ケース会議」「子ども作戦会議」の具体的な内容と手順をわかりやすく提示。

神戸学院大学出版会

2) 保護者ケース会議

表 4-2 保護者ケース会議

子どもの氏名(フリガナ)	学年	性別	年齢
山田 明(ヤマダアキラ)	3年	男	9歳
課題	環境	支援機関	
<input type="checkbox"/> 学習 <input type="checkbox"/> 発達 <input checked="" type="checkbox"/> 対人 <input type="checkbox"/> 不登校 <input checked="" type="checkbox"/> 問題行動 <input type="checkbox"/> 家庭環境 <input type="checkbox"/> 保護者対応 <input type="checkbox"/> 虐待(要支援・要保護) <input type="checkbox"/> いじめ(加害・被害) <input type="checkbox"/> その他()	<input checked="" type="checkbox"/> ひとり親家庭 <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> 就学援助 <input type="checkbox"/> 外国ルーツ		
チェック項目	記入欄		
子どもの状態 <input type="checkbox"/> 子どもの問題の経緯 <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害や発達特性 <input type="checkbox"/> 親子関係の問題 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの強み <input type="checkbox"/> 子どもの思いや願い <input type="checkbox"/> 子ども作戦会議の可否	学習：一斉指導では理解が難しい。個別対応必要(集中力の問題が理解力の問題が見立てられていない)。 対人：外遊びを通して同級生とはつながっており、普段は優しい。思いが伝わらないと暴言・暴力が出るのは言語表現の未熟さ又は暴力の学びがあったからかもしれない。大人には甘えてくるので、変容の不安定さも考えられる。 ・低学年の子どもの面倒見が良い。		
保護者の状態 <input type="checkbox"/> 保護者からの要望 <input type="checkbox"/> 保護者の特徴 <input type="checkbox"/> 保護者の障害受容 <input type="checkbox"/> 保護者の学校への不満・不信 <input type="checkbox"/> 家庭内の問題の有無	・クラスメートへの暴言暴力があった時、学校から連絡がくるので、母は不満に思っていた可能性がある。保護者ケース会議によって、暴言暴力の背景にあるものを共有することができた。 ・母親は子育て等で困り感をもっており、暴力によらない子育ての方法を一緒に実践していく必要がある。		
学校の状態 <input checked="" type="checkbox"/> 学校の困り感 <input type="checkbox"/> 学校の支援体制(中心の教員) <input type="checkbox"/> 学校の効果的な取り組み <input type="checkbox"/> SCやSSW等の専門家との協働 <input type="checkbox"/> 他機関との連携	・持ち物や提出物等、暴言暴力は家庭の養育力が弱いためと考えてきたが、親子間の相互の悪循環を変えることで問題の改善が見込める(校内ケース会議のアセスメントから)。 ・今回の虐待の件を受けて、担任中心の支援から、校内ケース会議や校内支援会議でSSWを含めた校内チームを形成し、保護者ケース会議も継続していく。		
◇ 学校と家庭で共通理解していきたい内容 ・今は学習や暴言暴力等の問題が多く、生活習慣も確立していない「困らせる子」であるが、実は「困っている」子で、困り感がどこから来ているのかを見立て、具体的支援を家庭と学校の協働で進めていく。			
◇ 初回の保護者ケース会議の目標 ・母親の怒りから虐待に至った ・母の子育て上の困り感を共有 ・母親の困り感に基づく支援			
◇ 保護者ケース会議実施の留意点 ・保護者を責めるような言動に ・本見の強みを紹介し、その強			
◇ 保護者ケース会議実施日			

4) 保護者ケース会議

参加者：母親、生徒指導(杉本)、担任(田中)、SSW(東)			
発言者	発言内容	ポイント	
1 生徒指導	今日はお忙しい中、山田さんにお越しいただきありがとうございます。私は生徒指導担当の杉本と申します。明さんのことをみんなで考えたいと思い、スクールソーシャルワーカーの東さんにも参加してもらいました。	来校へのハードルを下げます。	
2 担任	さっそくなんですが、明さんの日じりの様についてちょっとお話ししてもいいですか？きのう学童のお迎えに来られた際に、少しだけお話をさせてもらいましたよね。	誰がどのタイミングで待機を十分に確保	
3 母親	はい、お手数おかけしています。そうなんです。おとつい、私の帰宅が少し遅くなってしまっって、急いで夕飯の支度をしたんですが、明はゲームに夢中になって、何度呼んでも食べに来ないんです。おまけに私が帰るまでに宿題は済ませておくようにと言っていたのにしてなかった……そんなことが最近ずっと続いたので、つい腹が立ってゲームをしながらの明の後ろから蹴ってしまっったんです。ついカッとなってしまっ……		
4 生徒指導	お母さん、十分ご理解いただいているとは思いますが、次またこのようなことがあったら、学校としてはそれを知った以上、市に届けなくてはならないんです。		
5 母親	私だって、今の時代やっってはいけないことぐらいわかっています。でも何度口を酸っぱくして言っても聞かない子に、じゃあどうしたらいいんですか？ 親の気持ち、先生方にわかりますか？		
6 SSW	お母さんが明さんのことを一生懸命考えて下さっていることがすごく伝わりました。言われたことがなかなかできないということ、どういう方法でできるようになるかを、今日は一緒に考えさせていただきます。	怒りの感情を肯定的に認める 一緒に考えること	
7 母親	一体、どうしたらやってくれるんですかね……学校でも時々、友だちに手を出してるようだし……先生から電話があると、また何かやっったのではと、ドキッとします。		
8 担任	お母さん、申し訳なかったです。やはりお伝えしておかなければと思って、お電話させてもらっていました。そんなつもりではなかったですけど……		
9 母親	いえいえ、先生は悪くないです。明が悪いんです。		

《目次》

第1章 実践マニュアルの概要

1. 実践マニュアルの基になった問題予防型校内支援実践モデル

2. 実践マニュアルの目的

3. 実践マニュアルの利用者

4. 実践マニュアルの活用方法

第2章 実践マニュアルの基盤となる価値と理論

1. 実践マニュアルの基盤となる価値

2. 実践マニュアルの基盤となる理論

第3章 実践マニュアルによる援助の手順

1. 校内支援会議を実施する手順

2. 保護者ケース会議・子ども作戦会議を実施する手順

第4章 実践マニュアルの事例への活用

1. 発達課題・不登校の模擬事例

2. 虐待の模擬事例

第5章 実践マニュアルについてのQ&A

研修用配布資料



● 書籍の購入はお近くの書店・ネット書店にてご注文下さい。